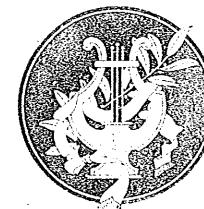


新訂
尋常小學唱歌
伴奏附

第五學年用



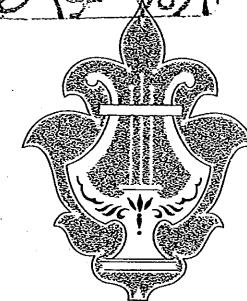
文部省



尋常小學唱歌

新訂

伴奏附
第五學年用



文部省

緒 言

- 一、本書ハ音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、從來本省著作ニ係ル「尋常小學唱歌」ニ改訂ヲ加ヘタルモノナリ。
- 二、本書ハ毎卷二十七章トシ、取扱者ニ選擇ノ餘地ヲ與ヘタリ。
- 三、本書ノ歌詞ハ、舊歌詞中ノ適切ナルモノ、新作ニ係ルモノ、及ビ尋常國語讀本・尋常小學讀本中ノ韻文ノ一部ヨリ成ル。
- 四、本書ノ歌詞ハ努メテ材料ヲ各方面ニ採り、文體・用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 五、本書ノ教材排列ハ強ヒテ程度ノ難易ノミニヨラズ、一面季節ニツキテモ考慮セリ。
- 六、卷頭ノ「みがかずば」「金剛石」「水は器」ノ三首ハ、何レモ昭憲皇太后ノ御歌ニシテ、嘗テ尋常小學修身書卷五ニ奉掲シタルモノナリ。「みがかずば」ノ曲ハ本省ニ於テ特ニ撰定シタルモノ、「金剛石」及ビ「水は器」ノ曲ハ學習院撰定ノモノニ係ル。但シ、伴奏ハ何レモ本省ニ於テ、今回特ニ撰定シタルモノナリ。
- 七、本書ハ取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類ヲ作製セリ。教授ニ際シテハ其ノ何レヲ採用スルモ可ナリ。
- 八、伴奏附ノ樂譜ヲ使用スル場合ニハ、前奏・後奏ノ如キハ時トシテ省略スルモ可ナリ。

昭和七年十二月 文 部 省

目 次

	目 次
一 みがかずば	2
二 金剛石・水は器	4
三 八岐の大蛇	8
四 舞へや歌へや	10
五 鯉のぼり	14
六 菅公	16
七 忍耐	18
八 朝日は昇りぬ	20
九 朝の歌	22
一〇 日光山	26
一一 山に登りて	28
一二 海	32
一三 納涼	34
一四 風鈴	38
一五 加藤清正	40
一六 鳥と花	44
一七 大塔宮	46
一八 秋の山	48
一九 いてふ	52
二〇 入營を送る	56
二一 冬景色	60
二二 水師營の會見	62
二三 児島高徳	66
二四 三才女	70
二五 進水式	74
二六 雜祭	78
二七 卒業生を送る歌	82

みがかすば

J=84

みがかすば

A handwritten musical score for 'みがかすば'. It consists of three staves of music for voice and piano. The top staff is for the voice, the middle staff is for the piano, and the bottom staff is for the voice. The music is in common time (indicated by 'J'). The key signature changes between G major (one sharp) and F# major (two sharps). The vocal line includes lyrics such as 'ミガカズバタマモカガミモ', 'ナニカセシ マナビノミーナモ', and 'カクコソアーリケレ'. The piano part provides harmonic support with various chords and rhythmic patterns.

みがかすば

一、みがかすば

みがかすば

玉 もかがみも

まなびの道も

かくこそありけれ。

なにかせん。

金剛石・水は器

金剛石
水は器

J=92

一コン ガウ一セキモミガカズバ
ニミグはうつはにじしたかひて

タマノヒカリハソハザラム
そのさまが一まになりぬなり

ヒトモマナビテノチニコソ
ひとはまじはるともにより

マコトノトクハアラハルレ
よ一きにあしきにうつるなり。

mp

mf

mp

mf

四

トケイノハリノタエマナク
おのれにまさらよきともを

メグルガゴトクトキノマノ
え一らびもとめてもろともに

ヒカゲヲシミテハケミナバ
こころのこ一まにむちうちて

イカナルワザカナラザラム
まなひのみちにすすめかし

f

f

金剛石
水は器

五

二、金剛石

金剛石もみがかずば

珠のひかりはそはざらむ。

人もまなびて後にこそ

まことの徳はあらはるれ。

時計の鉗のたえまなく

めぐるが如くときのまの

日。かげをしみて勵みなば

如何なる業かならざらむ。

水は器

水はうつはにしたがひて

そのさまざまになりぬなり。

人はまじはる友により、

よきにあしきにうつるなり。

おのれにまさるよき友を

えらびもとめてもろ共に、

こころの駒にむちうちて、

まなびの道にすすめかし。

八岐の大蛇

八岐の大蛇

L = 100

八岐の大蛇

八岐の大蛇

三、八岐の大蛇

一、めぐらす垣根、その門毎に棧敷、しつらへり。
二、八岐の大蛇、その槽に酒をぞ満てたる。
三、尊は立ちて、その御佩の劍引抜き。
四、年毎に酒飲みて醉ひてぞ臥したる。
尾、その醜大蛇ここに滅びて、
より出でたる御劍、
我がすめろぎの寶とたふとし。

八岐の大蛇

舞へや歌へや

J=92

一ハ ナニ キドレ ルテフ 一ハハイマキ
ニは かげにいね しとりーははやゆ

ムエリタサタマヘヤマヘヤタ
一もみあきつうたへうたへうたへこ
ガタヤサシクラヘーヤマヘヤマヘヤタ
ころゆたかにうたへうたへうたへうたへし
モトカラクマヘーヤ ハルカゼワタル
らべたかくうたへ みどり一いろそふ
ヒロノハナガタノシキニハゾマ
はやしはながたのしきにはぞう
cresc.

歌詞:

一
花に宿れる
春風廣は
蝶は
二
歌色歌陰
歌鳥ふ
蝶の廣
舞舞野舞蝶
遊舞は
心ぶ
らゆ時枝汝心は
べたはにがらゆ
高今樂ベたは早
くになこしがゆ
歌歌り。とさし
舞舞く。草庭に
二
歌色歌陰
歌鳥ふ
蝶の廣
舞舞野舞蝶
遊舞は
心ぶ
らゆ時枝汝心は
べたはにがらゆ
高今樂ベたは早
くくなこしがゆ
歌歌り。とさし
舞舞く。草庭に

四、舞へや歌へや

鯉のぼり

鯉のぼり

J=96

1. イーラーカノナーミート クーモーノナミ
ニヒーラーケルヒーローき そーのーくちに
三モーモーセノターキーラ ノーボーリナバ

mf

カーサーナルナーミーノ ナーカーッラヲ
ふ一ねーをものーまーん さーまーみえで
ターチーマチリュウーーー ナーリースベキ

タチバナカーラル アサーカセニ
ゆたかにふーるーふ をひーれには
ワガミニニヨーヤ ヲノコゴト

一四

鯉のぼり

タもソ カクオーヨークヤコヒーノボリ
のラニ ドゥーラーぜぬスガーテ
ラニ フードールヤコヒーノボリ

- 一、囊の波と雲の中空を、
高く泳ぐや、鯉のぼり。
- 二、開ける廣き其の口に、
舟をも呑まんさま見えて、
- 三、百瀬の瀧を登りなば、
忽ち龍になりぬべき、
- わが身に似よや男子と、
空に躍るや、鯉のぼり。

鯉のぼり

一五

菅 公

J=80

菅公

第一段落の歌詞 (上段):
 ヒカゲサヘギルむら雲に
 カニハツキギレードムラクモロノニ
 ニチハをのキツガリドムラゴーコロノ
 ニチセガチラシのこう一ーでうーの
 (音楽記号: 1拍子4分音符、ピアノは強調記号あり)

第二段落の歌詞 (中段):
 ハイショニユキシキミーハレ
 はいしょにはてしきみーあはれ
 (音楽記号: 弱音記号p)

第三段落の歌詞 (下段):
 ホスラヨハシモズナシキテ
 ラレシモズナシキテはし
 ハシモズナシキテはべ
 チモズナシキテはん
 (音楽記号: 強調記号mf)

第四段落の歌詞 (終):
 カミノマモリヲタノミツツ
 ギヨイをひごとにはいしつつ
 (音楽記号: 強調記号mf)

一六

菅 公

歌詞:
 ハイショニユキシキミーハレ
 はいしょにはてしきみーあはれ

一、日かげさへぎるむら雲に
 干すよしもなき濡衣を
 身には著つれど、真心の
 あらはれずして止まめやと、
 神のまもりを頼みつつ、
 配所に行きし君あはれ。
 二、のちを契りし梅が枝に
 東風吹く春はかへれども、
 菊の節會の後朝の
 宴に侍りし秋は來ず、
 御衣を日毎に拜しつつ、
 配所にはてし君あはれ。

菅 公

一七

忍 耐

J = 84

忍耐

一ノ フナーガーレテノ スエツーヒーニ
二み にふーリーかかる うきこーとーの

ミヨ シノブナリ ヤーマーミ ブモ
いさ こころみん みーのーち から

ウミトーナール ベキ ヤマミーヴー モ
なほこーのーう へに つもれーかーし

シバシコノハノシタクーグー ルナリ
かぎりあるみのちからーたーめさん

一八

忍耐

七 忍 耐

一、野を流れての末途に

海となるべき山水も、

見よ、忍ぶりなり、山水も。

二、身にふりかかる憂き事の、

しばし木の葉の下くぐるなり。

なほこの上に積れかし。

限ある身の力ためさん。

いざ試みん、身の力。

一九

朝日は昇りぬ

朝日は昇りぬ

$\text{♩} = 60$

アサヒハノボリスヒハはイデヌ
ニあさひはのぼりぬひはいでヌ
三アサヒハノボリスヒハはイデヌ

いきいきと
mf

アマビトメのキノオトカシマラ

クニハホヅナヲタグリアゲ
ニマにはニコうしをおひながら
ニハコウ一バノエナリテ

オヒテニホアケテフナデスル
アサツユフミワケのばりゆく
アイシモウスラグアサモヤニ

アマビトメのキノオトカシマラ
一やイタヒムカラ
アマビトメのキノオトカシマラ

朝日は昇りぬ

八、朝日は昇りぬ

一、朝日は昇りぬ、日は出でぬ。

海士人今や勇むらん。
追手に帆あげて船出する。

二、朝日は昇りぬ、日は出でぬ。

山には小牛を追ひながら、
朝露踏分け登りゆく
少女の歌や高からん。
町には工場の笛鳴りて、
今しも薄らぐ朝靄に、
機械の音や響くらん。

三、朝日は昇りぬ、日は出でぬ。

朝の歌

朝の歌

J=108

一マタタクホシカゲシダ一イニキエ
ニムラさきいろどるみや一まのうへ
三ヨロコビアフルスクサ一キモトリ

テホノカニニホフロヒガシノソラ
すみたるおはぞらくれなみさやー
モイマコソノボルヨアサヒノカゲー

ハイザイザーワーターハイ
ハイザイザーワーターハイ

朝の歌

ザコエータカクアサ一ハキヌア
さこエータカクアサ一ハキヌア
ザコエータカクアサ一ハキヌア

サ一ハキヌオゴソカニ
一ハキヌオゴソカニ
サ一ハキヌオゴソカニ
サ一ハキヌオゴソカニ

111

九、朝の歌

一、またたく星影次第に消えて
ほのかに匂ふよ東の空は。
いざいざ歌へいざ聲高く。

朝は來ぬ朝は來ぬ
おごそかに。

二、紫いろどるみ山の上に
澄みたる大空紅さやか。

いざいざ歌へいざ聲高く。

朝は來ぬ朝は來ぬ

ほがらかに。

三、よろこび溢れぬ草木も鳥も。

今こそ昇るよ朝日の影は。

いざいざ歌へいざ聲高く。

朝は來ぬ朝は來ぬ

はなやかに。

日光山

J=96

日光山

1. フタラノヤマモトコブカキトコロ
ニうきはりけぱりのはしらにけたに
三ビジュツノヒカリノカガヤクコノチ

2. グイヤノボンリウ一イハウツホトリ
ふるひしのみのてたくみをきはめ
ヤマミナミトリニミヅマタキヨク

3. キングンシューギヨークヲチリバメナシテ
たんせいまーばーゆきがうーてんじやうーに
ラクエシニーホーンノタヘナルハナト

4. ヒネモスミレドモアカザルミヤキ
コロをコめたるゑふでぞにほぶ
トツクニビトサヘメヅルモウベゾ

一、二荒の山下木深き所。
大谷の奔流岩打つほとり、
金銀珠玉をちりばめなしで、
終日見れども厭かざる宮居。

二、浮彫毛彫の柱に、
丹青まばゆき格天井に、
巧をきはめ、
柘に

三、美術の光の輝く此の地、
樂園皆縁に、
心をこめたる繪筆ぞ匂ふ。
外國人日本さへめづるも宜ぞ。

日光山

一〇、日光山

二七

山に登りて

山に登りて

$J=100$

ヤマノカセ ココチヨク スガスガ
とりのねも きこえこづ はるかな

一ノボリツキタルイタダキ
二ならぶやまやまみおろし

ノイハホノウベニソレタテバ
ツくもをばふみてわれたてば

二八

ヤマノカセ ココチヨク スガスガ
とりのねも きこえこづ はるかな

山に登りて

シ ワガココロ
り ひとのよ は

二九

一一、山に登りて

一のぼりつきたる嶺の
巖の上に我立てば、

山の風、

心地よく、

すがすがし、

我が心。

二

並ぶ山山見下しつ、

雲をば踏みて我立てば

鳥の音も、

聞え來す、

遙かなり、

人の世は。

海

♩ = 84

海

一マツバラトホク キーユルトコロ
ニしまやまやみに しーるきあたり

This section consists of two staves. The top staff is in common time (indicated by '2') and the bottom staff is in 2/4 time. The vocal line features eighth-note patterns. The piano accompaniment consists of eighth-note chords.

シラホハカーゲハウー カブ
いさりびひーかりあーはし

This section also consists of two staves. The top staff is in common time (indicated by '2') and the bottom staff is in 2/4 time. The vocal line continues with eighth-note patterns. The piano accompaniment provides harmonic support with eighth-note chords.

ホシアミハーマニタガクシテ
よるなみきーしにゆるくして

This section consists of two staves. The top staff is in common time (indicated by '2') and the bottom staff is in 2/4 time. The vocal line maintains its eighth-note pattern. The piano accompaniment provides harmonic support with eighth-note chords.

カモメハヒーククナミニトブミヨ
うらかぜかーろくいさごふくみよ

This section consists of two staves. The top staff is in common time (indicated by '2') and the bottom staff is in 2/4 time. The vocal line continues with eighth-note patterns. The piano accompaniment provides harmonic support with eighth-note chords.

ヒルノウミミヨヒルノウミ
よるのうみみよよるのうみ

This section consists of two staves. The top staff is in common time (indicated by '2') and the bottom staff is in 2/4 time. The vocal line continues with eighth-note patterns. The piano accompaniment provides harmonic support with eighth-note chords.

一、松原遠く消ゆるところ、
白帆の影は浮かぶ。
干網濱に高くして、
かもめは低く波に飛ぶ。

二、島山間に著きあたり、
漁火光淡し。
浦風軽く沙吹く、
見よ夜の海。

見よ夜の海。

二、海

海

三

納涼

納涼

J = 92

mf

con 2a

一ヒトヒノアセラユアミニナガシコフ
ニカリのけむりのきばをこめでてみ
三ミソタシトホキアラタノウヘヲサ

mf

一ガホグナノシタカゲシメテオ
二ドリのはごしつきかげすずテし
三ナミタテフギタルヨカゼ

三四

mf

ヤーハラーカーラヒトーフムをイ
一のはそーみーちふしーもビ
ゼーニナガールルホタルビ

p

シーローニココロヲカムスのキ
かーしーくコニユラカタムスのキ
クーーツコニユラカタムスのキ

mf

ツビカタリムツビガタリタノシヤ
しはたれぞシはたれぞゆカシヤ
エブミエツキエツミエツスズシヤ

納涼

三五

一、納涼

一、一日の汗を湯浴に流し
夕顔棚の下陰占めて
親子同胞、一つむしろに
心をおかぬむつび語。
むつび語、たのしや。
二、蚊遣のけむり軒端をこめて
緑の葉ごし月影涼し。

裏の細道、節もをかしく
聞ゆる歌の主は誰ぞ。

主は誰ぞ、ゆかしや。

三、見わたし遠き青田の上を
小波たてて吹来る夜風
風に流れる螢火いくつ、
月影うけて消えつ見えつ、
消えつ見えつ涼しや。

風 鈴

J=96

風
鈴

Wind chime music score. The score consists of three staves of music for wind chimes. The first staff starts with a dynamic of *p*. The second staff begins with *mp* and includes lyrics: "一ノキノフウリンユフーカゼニ
二のきのふうりんゆふーかぜに". The third staff begins with *p* and includes lyrics: "チリンリンチリンリンフウーリンノネノ
ちりんりんちりんりんうちみづのあと". The score is in common time with a key signature of two sharps.

三八

Wind chime music score with piano accompaniment. The score consists of three staves. The top staff is for the wind chime, the middle staff is for the piano, and the bottom staff is for the vocal line. The vocal line includes lyrics: "スズシーサヨヒルノマノホテリキエ
ここちよやおほぞらにつきはうか
ウセナツノヒハイマゾクレユク
びてなつのよはいまぞふけゆく". The score is in common time with a key signature of two sharps.

風
鈴

三九

一四、風 鈴

一、軒の風鈴、夕風に

ちりんりん、ちりんりん。
風鈴の音の涼しさよ。

二、軒の風鈴、夕風に

ちりんりん、ちりんりん。
風鈴の音の涼しさよ。

大空に月は浮かびて
夏の夜は今ぞ更行く。
打水の跡心地よや。
軒の風鈴タ風に

加藤清正

加藤清正

$J=72$

一カチホコリタルテキヘイヲ
ニともあやふしとみをすてて

イツキヨニヤブルシヅガタケ
おもむきすくふうるさんや

シテホンヤリノズキイチト
ひやくまんよきのみんぐんの

四〇

加藤清正

タカキトラノスケ
ひしぎきじやうへん
くろぢにしろき

ザンバオリ
ななもじの
めうはふれんげの
はたかぜ

四一

ハノチノヨマゲノ
にことくにまでも
なびきけり

一五、加藤清正

一、勝ちほこりたる敵兵を

一舉に破る戦獄

七本槍の隨一と

譽は高き虎之助

蛇の目の紋の陣羽織

十字の槍の武者振は

後の世までの語りぐさ

二、友危しと身をすてて

赴き救ふ蔚山や

百萬餘騎の明軍の

荒膽ひしぐ鬼上官

黒地に白き七文字の

妙法蓮華の旗風に

異國までも靡きけり。

鳥と花

d=104

鳥と花

トーリニ ナラバヤミソラノ
ニは一なにならばやそのふの

トリニ カスミヲワケテハヒバリートードカリ
はなにさくらとさきてはあさひーににはひ

キーリヲワケテハカラリートーカケリ
きーくとさきてはつゆーにーかをり

四四

ハルトアキトヲカザラバヤ
はるとあきとをかざらばや

鳥と花

一、鳥にならばやみ空の鳥に。
二、花にならばや園生の花に。
春、菊と咲きては露にかかり、
秋、と秋とを飾らばや。
春、霧をわけては雲雀とかけり、
秋、と咲きては朝日に匂ひ、
春、霞をわけては雁とかげり、
秋、と秋とをかざらばや。

四五

大塔宮

$\text{♪}=104$

大塔宮

The musical score consists of three staves of music for voice and piano. The top staff starts with a forte dynamic (p) and a tempo of $\text{♪}=104$. The lyrics are:

一コホリノヤイバハニキアミテチキヤウ
ニヤホマヒノシガタニラシルアミナカテヲツシキヤウ
三ヨロヒノサヘニキタケルニキヤムナカテヲツシキヤウ
四うらみつキセニキタケルニキヤムナカテヲツシキヤウ

The middle staff continues with the same lyrics and dynamics.

The bottom staff begins with a ritardando (*rit.*) and a piano dynamic (p), followed by *a tempo*. The lyrics are:

一ぶがかクリンカルもカミルチカズアシラキシホキカタレグマノソアヤ
二モラブタカクヌカシラキシホキカタレグマノソアヤ
三モラブタカクヌカシラキシホキカタレグマノソアヤ
四モラブタカクヌカシラキシホキカタレグマノソアヤ

四六

大塔宮

一七、大塔宮

四七

一、水の刃御腹に當てて、
忍びおはしし般若寺あはれ。
二、山伏姿喰しき道を、
御日影も聞き鑓倉山の口。

三、鎧の上に立てる矢七つ、
落行きましし熊野路あはれ。
四、恨盡きせぬ建武の昔、
酒酌みましし三芳野あはれ。

五、流れるる血しほ拭ひもあへず、
御最期あはれ語るものゆゆし。

秋の山

秋の山

J = 58

mp

一カセキヨクヒハウラ
ニララツブくみねまた

mp

ラカニハジノハノクレナキニホフ
みねもあかときのおりなすにしき

mf

ウツクシキアキノヤマ
かかやけらるあきのやま

四八

mp

ハナススキワケテノボレバ
ながめつつしばしいこへば

mp

カタハラノモリノナカニ
あしもとのくさのかげに

mf ケタタマシ *mp* モズノコエ
mp はそぼそと *p* むしのこそ

秋の山

四九

伴奏部の強弱記号は上段は一番 下段は二番歌詞に適用す

一八、秋の山

一、風清く。日はうららかに。

黄櫨の葉の紅にほふ
うつくしき秋の山。
花すすき分けて登れば
かたはらの森の中に、
けたたまし、百舌の聲。

二、打續く峯また峯も

赤と黄の織りなす錦

眺めつてしまいこへば
足もとの草の陰に、
ほそぼそと蟲の聲。

ひてふ

$\text{♩} = 120$

ピアノと声の二部楽譜。音符は主に八分音符で構成されている。

歌詞:

一ナツキノアサノヲカノウ
ニくれゆくあきのをかのう

歌詞:

ヒノテリソヘバシンリヨクノ
かせそよぶけばこんじきの

歌詞:

コズエサヤーゲクイサギヨク
コトリむれ一つとふごとく

歌詞:

セイタシタマスオホイテフ
ラくじつにちるおほいてふ

歌詞:

ソクージヤニータールスガタアリ
しかいをてーらーすひかりあり

ひてふ

五三

一九、いてふ

一、五月の朝の丘の上、
日の照りそへば
梢さやけく、いさぎよく
青天を摩す
新緑の

王者に似たる姿あり。
大いてふ。

二、暮行く秋の丘の上、

風そよ吹けば
金色の
小鳥群れつつ飛ぶごとく、
落日に散る
大海を照らす光あり。
大いてふ。

入營を送る

J-108

入營を送る

ノゾメ ドカナハ スヒートモアルニ
みかど のみたて とつ一かへまつり

メサルルキミコソボマーレナレ
はえあるつとめをつく一せかし

サラバユーケクニノタメ
さらばゆーけくにのため

1-mi ga mi no u he u la ya ma si
とほきそせんのここのころもて

五六

入營を送る

ノゾメ ドカナハ スヒートモアルニ
みかど のみたて とつ一かへまつり

メサルルキミコソボマーレナレ
はえあるつとめをつく一せかし

サラバユーケクニノタメ
さらばゆーけくにのため

五七

二〇、入營を送る

一、ますらたけをと生ひ立ちて、
國のまもりに召されたる
君が身の上、うらやまし。
望めどかなはぬ人もあるに、
召さるる君こそ譽なれ。
さらば行け、國の爲。

二、征矢を額に立たすとも、
背には負はじと誓ひたる
遠き祖先の心もて、
みかどの御楯とつかへまつり、
榮あるつとめを盡くせかし。
さらば行け、國の爲。

冬景色

$\text{♩} = 100$

冬景色

六〇

冬景色

六一

二、冬景色

水師營の會見

水師營の會見

J=120

一リヨ ジュン カ イジャウ ャ クナ リ ラ
ニニ はに ひとも なつめ の カ テ
三ノギ タイ シャウ 一ハ オ バソ の カ ニ
四さき のふーの てきは けふ 一の カ モス
五カタチ タタダシテ イヒイデ
六ふたりの わがこそれぞ
七リヤウ 一シャウ ヒルゲ
八こう いしやするに あままりあ
九サラバト アクシユ ネシゴロ

mf

六二

ノギタ イシャウ ートークリケン
くづれ 一コトの これり みんタフ
オホミコトノリ ーツカの ばうレーピル
わ一れは たへつ かタマヒツ
ニシラタウシナヒタマヒツ
コレぞシナヒタマヒツ
ワジニアスルリヤウ
タジツオトタエシ一ハウ
タツ

mp

トコロハアイコロ
トイカマレハコロ
カカカレハコロ
カタタクイシヤ
ケフイノノハ
ナヒカクメイタ
ヒ

水師營の會見

六三

三、水師營の會見

一、旅順開城約成りて、

敵の將軍ステッセル、

乃木大將と會見の所はいづこ、水師營。

二、庭に一本なつめの木、

彈丸あともいちじるく、

くづれ残れる民屋に、いまぞ相見る二將軍。

三、乃木大將はおごそかに、

御めぐみ深き大君の

大みことのりつたふれば、彼かしこみて謝しまつる。

四、昨日の敵は今日の友、

語る言葉もうちとけて

我はたたへつ、彼の防備、彼はたたへつ、我が武勇。

五、かたち正していひ出でぬ、

此の方面の戰闘に

二子を失ひ給ひつる閣下の心如何にぞ」と。

六、二人の我が子それぞれに、

死所を得たるを喜べり。

これぞ武門の面目」と、大將答力あり。

七、兩將晝食共にして、

なほも盡きせぬ物語。

我に愛する良馬あり。今日の記念に獻ずべし。

八、厚意謝するに餘りあり。

軍のおきてにしたがひて、

他日我が手に受領せば、長くいたはり養はん。

九、さらば」と、握手ねんごろに、

別れて行くや右左。

砲音絶えし砲臺にひらめき立てり、日の御旗。

兒島高徳

兒島高徳

♩=80

一 フ ナサカ
ニ ミ こころ

ト サ クラ ノ ミ キニ ジフ ジノ シ
よ さ くら の み きの じふ じの し

ヤ マ ヤ ス ギサ カト ミ アト シ タヒテ
な らぬ い てまし の み そで つ ゆけき

キ ン ノ シヤウ 一 ピ チュウ ラ イ カデ キ コエ ン
あ さ と て に す んじ て お ま す か し こ さ

六六

ト シコウ セ ンヲ ムナ シクスルナ カレ
て んこう せ んを むな し う する な かれ

ト キ ハ ンレイ ナキニシモア ラズ
と き は んれい なき にしも あ らず

六七

二三、兒島高徳

一、船坂山や桜坂と

御あと慕ひて院の庄

微衷をいかで聞えんと

桜の幹に十字の詩

天勾踐を空しうする莫れ、
時范蠡無きにしも非ず。

二、御心ならぬいでましの

御袖露けき朝戸出に

詠じて笑ますかしこよ

桜の幹の十字の詩

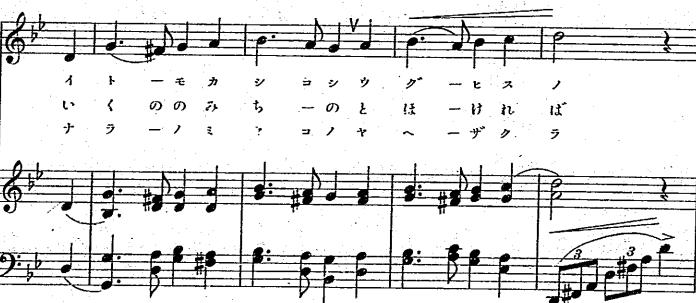
天勾踐を空しうする莫れ、

時范蠡無きにしも非す。

三才女

mf

三才女



七〇



三才女

七一

二四、三才女

一、色香も深き紅梅の
枝にむすびて、

勅なればいともかしこし、
鶯の問はば如何にと、

幾代の春かかるるらん。宮人の
聞え上げたる言葉は、雲るまで

二、みすのうちより、宮人の
袖引止めで、江山いく野の道の

遠ければ文見ずといひし
の葉は

後天の橋立末かげて、言の葉は

三、きさいの宮の仰言
御聲のものと、に、言の葉は

八、古奈良の都の重
重の桜今日九重の言葉にほひぬと
花は千歳も散らざりし言葉の葉は

進水式

進水式

J = 120

Three staves of musical notation for voice and piano. The first staff starts with a rest followed by a melodic line. The second staff begins with a piano accompaniment (mf) followed by a vocal line. The third staff begins with a piano accompaniment (mf) followed by a vocal line.

Lyrics:

一コンジキノソチ ターカクラドレバ
ニばんざいのこゑ てんちをとよもし
三ソヤヨリモトク オホウミメガケテ

ヤマナスオボフキ オトナクースベーリ
あらゆるもののみな さけびをあげて
ソレイマウマルト フドリテイレーバ

七四

Two staves of musical notation for voice and piano. The first staff begins with a piano accompaniment (p) followed by a vocal line. The second staff begins with a piano accompaniment (f) followed by a vocal line.

Lyrics:

カシュニハナフリ シラハトマヒマツ
めでたきかどてを よろこびことはぐ
ウミニモソキタツ クワシノシラナミ

イマイマイマジウマルル ークミノユウーシ
いまいまいまぞうまるる ーうみのゆうーし
イマイマイマジウマルル ークミノユウーシ

七五

進水式

二五、進水式

一、金色の槌高くをどれば、
山なす大船音なく滑り、
艦首に花降り、白鳩舞ひ舞ふ。
今、今、今ぞ生まるる
海の勇士。

二、萬歳の聲、天地をとよもし、
あらゆるもの皆さけびをあげて、
今、今、今ぞ生まるる
海の勇士。

めでたき門出を喜び壽ぐ。
今、今、今ぞ生まるる
海の勇士。

三、征矢よりも疾く大海目がけて、
我今生まる。とをどりて入れば、
海にもわき立つ歡呼の白波。
今、今ぞ生まるる
海の勇士。

雛 祭

J = 92

雛
祭

p

mp

f

poco rit., *a tempo*

mp

mf

一 オギヤウ ゼタダシイ ダイリサマ アカイ
ニあかい まうせん うつくしく ひしの

ハカマノ クリンデロタチ ゴニンバヤシガ
おもちに おしふざけ おくわしまめいり

七八

ツギフキト キレイニナラブダンノウ
いろいと きれいにならぶだんのう

ヘボンボリツケテスソツテ
(わびんにさしたひももの)

ミレバキシノビヤウーブガキラキラ
はなもなかばひらいでにこにこ

トユメノオクニノコテンノヤウーニ
おとぎばなしのおうちのやうに

p rit.

雛
祭

七九

二六、雛 祭

一、お行儀正しい内裏さま、
赤い袴の官女たち、
五人ばやしが次々と、
きれいに並ぶ壇の上、
雪洞うけて坐つて見れば
金の屏風がきらきらと、
夢のお國の御殿のやうに。

二、赤い毛氈美しく
菱のお餅にお白酒、
お菓子豆いりいろいろと
きれいに並ぶ壇の上、
花瓶にさした緋桃の花も、
半ば開いてにこにこと
お伽噺のお家のやうに。

二七、卒業生を送る歌

一、あまたの年月、兄としむつび

姉とし慕ひし上級生よ。

日頃のつとめ、かい見えて
榮ある今日のよろこびや。

二、我等に先立ち學を卒へて、
今日しも出立つ卒業生よ。

君等の面にあふれたる
希望の色のたのもしや。

三、我等もやがては學を卒へて、
君等が行く道後より追はん。
ゆくての道のしるべして
正しきかたに導けや。



J=104

アマタノトシツキアニトシームツビ
ニわれらにさきだちまなびをへて
ミソレラモヤガテハマナビラーへテ

アキトシーシタヒシジャウ一キフーセイヨ
けふ一しもーいでたつそつづふーせいよ
キミラガーユクミチアトヨリオハシ

ヒゴロノツトメカヒミエテ
ヒミラのおもにあふれたる
エクテノミチノシルベシ

cresc. *mf*

HB09-3-1-5

新訂
尋常小學唱歌
伴奏附

不許複製

第五學年用 定價金四拾四錢

昭和八年一月二十日 印刷
昭和八年二月十五日 發行

著作權者 文 部 省

東京市京橋區銀座一丁目五番地
發行者 大日本圖書株式會社

代表者 專務取締役 杉山常次郎

東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百〇八番地
印刷所 共同印刷株式會社

東京市京橋區銀座一丁目五番地
發行所 大日本圖書株式會社

振替貯金口座(東京二一九番)電話京橋二七三番二七四番